

〈解答〉

- ① 1 ①：排他的経済水域 ②：工（両解）
2 名称：加工貿易 語：貿易摩擦
3 ①：地球温暖化 ②：再生可能（両解）
4 ア
5 近郊

配点 ① 2は各1点，他は各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 排他的経済水域〔EEZ〕は、領海の外側で、沿岸国だけが水産資源と鉱産資源の開発や採掘をすることができる水域である。排他的経済水域の外側は公海である。国連海洋法条約では、排他的経済水域を200海里〔約370km〕までと定めている。100か国以上が排他的経済水域を設定しており、日本も1996年に設定した。島国である日本は、領海と排他的経済水域を合わせた面積が、国土面積の10倍以上にもなる。
- 2 日本の工業は、原料や燃料を輸入し、高い技術力で優れた工業製品をつくって輸出する加工貿易によって発展してきた。しかし、1980年代に外国製品との競争の中で貿易摩擦が生じると、日本企業はアメリカ合衆国やヨーロッパなどに進出して、自動車や電気製品などを現地で生産するようになった。その後、賃金の安い労働力や新たな市場を求めて中国や東南アジアに進出先が広がり、多くの日本企業が多国籍企業として世界各地で生産を行っている。こうした変化に伴い、日本の一部の工業では国内の生産が衰退し、産業の空洞化と呼ばれる現象が見られるようになった。
- 3 地球温暖化とは、地球全体の気温が高くなることで、石炭や石油などの化石燃料の大量消費により、大気中の二酸化炭素が増えることが主な原因とされている。火力発電は地球温暖化を引きおこす問題があるとして、原子力発電が推進されてきたが、2011年におきた福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、原子力発電の利用が見直されるようになった。また、日本はエネルギー資源の自給率が低いため、太陽光、風力、地熱、バイオ燃料など再生可能エネルギーを利用した発電の拡大に期待が高まっている。
- 4 日本は、毎年のように梅雨や台風などによる大雨に見舞われることから、気象災害が多い国である。川や海の周りの低い土地にたくさんの人が住んでいることも、多くの気象災害がおこる原因となっている。台風の通り道になりやすい地域では、強風や高潮による被害、大雨による洪水や土石流などがおこることもある。
- 5 近郊農業とは、都市の消費者向けに、都市から距離の近い地域で行われる農業のことである。鮮度が求められる野菜や果物、花、鶏卵などが生産される。